

者や障害者などの移動手段として大きな役割を担っています。そのため、

JR花咲線は、引き続き北海道や関係市町村と連携し、路線の維持・存続に向けた検討、要請活動のほか、利用促進策を検討・推進していくとともに、バス路線についても関係機関と連携して必要な支援を行い、路線の維持と接続性の向上に努めます。

また、特に市街地以外に居住する町民の移動手段を確保するため、デマンドバスの運行とスクールバスの町民利用を引き続き実施します。

一方、町民からの要望が多い夜間の移動手段の確保に向けては、夜間におけるハイヤーの運行再開について、関係団体と連携した要請活動と公共交通の代替としての交通事業者への支援策の提示を引き続き行います。

また、町内公共交通の担い手である運転手の確保に向けた支援を継続します。

町営住宅の整備では、松葉まちなか団地1棟6戸の住宅を建設するほか、奔渡団地と白浜団地の老朽化住宅の外壁・屋上改修を行います。

また、住環境については、住宅の省エネ・バリアフリー改修やリフォーム、新築に対する支援を継続します。

公園は、奔渡町公園のフェンスの更新とエゾシカ進入による衛生環境

などの悪化を防ぐため、出入口への門扉を設置します。

また、太田農村公園の池について、自然環境や安全面に配慮した改修に着手します。

交通安全は、町民が悲惨な事故の被害者や加害者にならないように、交通ルールの遵守を求めるとともに、通学道路などの現地調査を行い、危険な箇所への交通安全施設の整備を関係機関に要望します。

消費生活は、多様な手法による特殊詐欺が依然として社会問題となっています。ここ数年は、町内での被害報告はありませんが、新たな手口による事例が全国的に発生しており、町民が被害に遭わないよう、引き続き関係機関や団体と連携を密にし、



適切な情報提供をするともに、地域に密着した啓発活動に努めます。

消防は、厚岸消防団第1分団庁舎を津波浸水予想区域から高台へ移転改築するための実施設計、消防本部の消防指令車と厚岸消防署の小型動力ポンプ付水槽車の更新、地域の初期消火活動を強化するための小型動力ポンプの更新、新規潜水隊員養成のための潜水資機材の増設、消防団員の災害活動時の安全を確保するための安全装備品の整備を支援します。

防災について、災害全般にわたる対策では、防災行政無線のデジタル化を図り、全ての戸別住宅などの受信機を更新します。

地震・津波災害の対策では、御供山への津波避難階段を整備するほか、広域的な避難場所の少ない湖南地区において、町営住宅奔渡団地付近に新たな緊急避難場所を整備します。

さらに、アレルギー対応の備蓄食糧への切り替えを継続するとともに、自主防災組織が行う防災活動や防災資機材の整備に対する補助制度を継続します。

また、防災対策のさらなる強化を図るため、新たに『危機対策室』を設置するほか、災害対策基本法の改正への対応として、避難行動要支援者への対応とともに、自助・共助の観点から、町民の責務について、町民の皆さんの意見を伺いながら、



『厚岸町地域防災計画』を見直します。

町民の防災意識の普及では、厚岸町防災訓練、自治会との連携による災害図上訓練や避難所運営演習、教育委員会との連携による防災標語の募集、学校における防災教育では災害図上訓練などを継続して実施します。

また、町内在住外国人に対しては、防災教材を活用した防災意識の普及を進めるとともに、外国語表示看板整備について研究・検討します。

町内の空き家対策は、調査を踏まえ、方針の作成に向けた体制整備を検討します。

治山対策は、崩落箇所の復旧として梅香、筑紫恋、奔渡、湾月で、北海道が事業主体となり5カ所の治山工事を行う予定です。